**「令和２年度山梨県社会教育研究大会」令和２年１１月２７日（金）**

**於：市川三郷町生涯学習センター　多目的ホール**

**基調講演　『人と社会をつなぐ社会教育について』　青山鉄平氏（文教大学）**

○「スグキク」を用いた「リアルタイムコメント」体験 ⇔ 参加者100名超

○「社会教育委員」を、他の方に、どのように 説明されていますか？

→大変説明しにくいですよね。

**■講演の概要**

**１．社会教育における「教育」と「学習」のかたち**

**（１）社会教育の定義と社会教育らしさ**

　・ 社会教育は、教育の行われる「場」によって定義される。

　　→「学校」教育、「家庭」教育、それ以外が「社会」教育？

　・ 学校とは異なる場で行われることが､さまざまな「社会教育らしさ」に

つながっている。

　　→ 教える人がいないが知らずに学ぶ。「仲直りの方法」のように。

**（２）社会教育における「教育」と「学習」を捉える視点**

**・「学習」を捉え直す**：経験を通じた個人の変容全般

　＜一般的な学習のイメージ＞･･･学校のイメージ？

　　　　①　教えられた結果として生ずる

　　　　②　学習者が意図的に行う

　　　　③　他の行為から独立した活動である

　　　　④ 「よいこと」である

**→ こうしたイメージよりも、学習を広く捉えることが必要。**

**・「教育」を捉え直す**：学習を支援するための意図的な働きかけ

**→「教えること」だけが教育とは限らない**：学習支援という考え方…図書館

**→ 多様な指導者・支援者が存在する**

**→ 自律的･相互的な教育/学習の場として､集団/団体が重要な意味をもつ**

**・ 社会教育で望ましいとされてきた学習（者）のかたち**

　　　　①　**自発的**であること

　　　　②　**相互的**であること

　　　　③　**多様**であること

　　　　④ **学習以外の要素と関連**したものであること

　　→ **社会教育は「教育」だけにとどまらず、生き方や社会（地域）のあり方**

**と直接的に結びつく･･･**生活と地域､人生を豊かにする

　　→ 学んだことをいつ使うのか？

　　　 ・ 学校教育 － いつか役立つ

　　　 ・ 社会教育 － 学びたいので学ぶ　学んだことを今使う

**２．社会教育が目指す「人づくり」と「地域づくり」の循環**

**（１）「人づくり」と「地域づくり」の循環**

　○ 社会教育が目指す「人づくり」と「地域づくり」の循環とは

　　→「公民館」へ期待されたこと･･･自助･共助･公助､､､

　　→ 学習と生活のつながり

　→ 住民同士が 学び 変わる 地域が変わる　中心に公民館

　○ 近年、改めて「地域づくり」の役割が期待される背景

　　→ 個人的/消費的な生涯学習への反省･･･80～90年代のｶﾙﾁｬｰｾﾝﾀｰﾌﾞｰﾑ

→ 地域の教育力の活用と学校/子育て支援への期待

　学びが地域につながらないとね　子育てにもつながらないとね

→ 人口減少と地方創生への関心の高まり

　 趣味サークルとしての繁栄から地域の発展へ

学びが、地域・公共の福祉につながるとステキ

　　 「人づくり」と「地域づくり」の循環は、生涯学習・社会教育だけでなく、

　　 あらゆる行政分野や市民活動についても重要なはず

**（２）社会教育委員の存在意義･･･なぜいるの？**

　○ 行政による間接的な支援：社会教育行政の基本は「求めに応じて」

**→ サポート・バット・ノーコントロール**

　　→ 戦前の教化・動員的な社会教育への反省

→ 民主的な住民自治のための自己教育・相互教育のための間接的な支援

　　→ 団体への補助金のチェックも重要な役割

　○ 市町村単位の取り組み：求められる社会教育は自治体ごとに違うはず

　　→ 地域の状況に応じた社会教育の取り組み（⇔ 学校教育の特性）

→ コミュニティスクールという発想の新しさと新しくなさ

　○ 社会教育行政と地域をつなぐ パイプ

→ 日常生活と密着した学習

　→ 地域と関連した学習、学習を通じた地域づくり

　　 「 自治体の社会教育（行政）のあり方を 住民自身が決める 」 ための、

住民参加の仕組み

　　 （学校とは異なる）社会教育の特性と関連したもの

**３．求められる「ネットワーク」や「コーディネート」**

**（１）「ネットワーク」や「コーディネート」が重視される背景**

　○ 生涯学習における学習の特性との関連から

　○ 行政改革・教育改革との関連から

　　→ 教育問題への対応、行政の効率化への対応、市民参加の推進

　　・ 学校・家庭・地域の連携

・ 教育行政と一般行政の連携（ネットワーク型行政）

・ 行政と民間の連携（企業も、NPOも、市民活動も）

・ 社会教育行政の基盤（ヒト･モノ･カネ）の弱体化 →

ネットワークと成果の強調

**（２）「ネットワーク」や「コーディネート」をめぐる課題･･･気をつけること**

**○** **「ネットワーク」** や **「コーディネート」** が目的？

　　・ 本来、ネットワークもコーディネートも連携・協働も、手段に過ぎない

　　・ なのに、「ネットワーク」や「コーディネート」の目的や意味はあいまい

**○** **目指すべき「地域づくり」**ってどんなこと？

　　・ 「つながり/きずな」とは言うけれど

　　・ 地域のつながりがあるとどうなるの？　ないとどうなるの？

　　・ 『イメージ』が共有することの意味：ネットワークの前提

**○** **社会教育にこそできる「地域づくり」**ってどんなこと？

　　・ 様々な領域で「地域づくり」に向けた取り組みが行われている

　　　 →公民館や社会教育だけでない

　　・ 社会教育にこそできることとは何か：連携と存在意義のあいだで

　　　 強みは何か？

**○** そのために**一人ひとりができること**は？

　　・社会教育委員として、行政の職員として、住民として･･･

**＜まとめ＞**

■ 社会教育の意義は伝えにくいし効果も検証しにくい。

それが魅力でもある。

■ 社会教育については、お役所や地域のエライ人が「学びなさい」ではダメ。

住民が学ぶのを横からお手伝いし、一緒になってつくっていく教育。

■ 社会教育委員は、立場上「公務員」。基本「住民」。

■ 社会教育委員は、独任制（一人で委員）で、委員自体の知識も必要。

■ 地域のことは、我慢できる範囲で収まることがよいこと。

地域で一緒に考えていくことが大切。

■ 公民館は中学校区に一館。

公民館が核となって学校と他団体をつなぐことも大切。